

# 授業づくりリーフレット2026 フォローアップ第1号 資質・能力の育成を目指す単元構想

令和8年6月8日  
中越教育事務所  
学校支援第2課



## 【一教科教育専門監（専門監）の授業から学ぶ（国語編）一】

令和8年1月に中越教育事務所が発行した『授業づくりリーフレット2026』は、「単元構想」を取り上げ、算数を例にして基本的な考え方と具体的な方法を紹介しています。

今号では坂井大空専門監（長岡市立大島小学校）

による、「授業力向上研修会」（R7.10.31）の小学4年国語『ごんぎつね』の指導案とリーフレットを対応させながら、「単元構想」の工夫を読み取ります。

『ごんぎつねの学習指導案』

TeaRoomの「教科教育専門監ポータル」の「指導案」からダウンロードし、ご覧ください。



『令和8年度  
学校教育の重点』



『授業づくり  
リーフレット2026』

## その1 単元の目標を児童生徒の姿で具体化しよう



リーフレットには、「学習指導要領と児童生徒の実態から育成する資質・能力を明確にしよう」とあるけれど、『ごんぎつね』の場合はどうするとよいのでしょうか？

「授業者がどのような児童生徒の姿を目指しているのか」を明確にすることが、児童生徒の反応を予想したり、その反応をどのように価値付けるのかを見とおしたりすることにつながります。

専門監は、考えを形成する力（多様な考えがあることに気付いて自分の考えに追加したり、自分の考えを修正したりする姿）の育成を目指しています。

そのために、自分の解釈を見直し、深めるための根拠となる表現を児童が互いに共有し、表現の意味付け方や解釈の妥当性について対話をとおして見直していく「単元構想」としています。



育成する  
資質・能力を  
具体的に示し  
ています

### 【指導案から】本時における「学びが深まった」児童の姿

叙述を基にして、登場人物の気持ちを具体的に想像し、自他の考えを比べながら問題解決を図っていく姿を目指す。そして、多様な考えがあることに気付き、新たな考えを付け加えたり変容させたり、再度自分の考えを見直したりしながら、考えを形成していく姿を期待する。

単元計画	時間	学習課題
1次	1・2	物語の設定を読み取ろう。
	3	最初に読んだ感想を書こう。
	4	学習計画を立てよう。
2次	5	どうして、ごんは、いたずらばかりするのか。
	6	どうして、ごんは、つぐないをしたのか。
	7	どうして、ごんは、兵十のあとをつけていったのか。
	8	どうして、ごんは、つぐないを続けたのか。
	9	ごんは、どんな気持ちを兵十に分かってほしかったのか。
	10	ごんの気持ちは、兵十に伝わったのか。
	11	青いけむりの意味は何なのか。
	12	最初の一文は、どういう意味で書かれているのか。
	13	作者が作品に込めた思い（作品のメッセージ）を受け取ろう。
3次	14	「ごんぎつね」の魅力を発信しよう。
	15	みんなでポスターを紹介し合おう。

2次で根拠を  
もって読み  
深め、3次で  
自分の解釈を  
表現する単元  
構成になって  
います



児童が対話等をとおして各々の解釈を深めていく単元構成であることは、「学校教育の重点」で求められている児童生徒を「主語」とした単元の一例と言えそうですね。

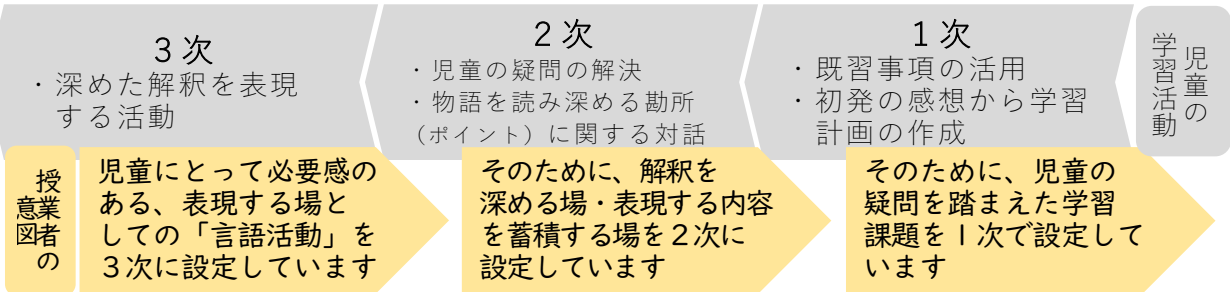
## その2 単元の流れを考えよう



国語の単元では「言語活動」が大切と言われて久しいですが、専門監は「言語活動」をどのように設定していますか？

国語では、**児童生徒に学ぶ楽しさを実感させ、学習活動を進めていく推進力になる「言語活動」の設定が重要です。**「言語活動」は、学習指導要領で育成が求められる資質・能力と、教材の特徴、児童生徒の疑問や必要感の重なるところに設定するとよいでしょう。専門監は「ポスター形式で『ごんぎつね』の魅力を発信する」という「言語活動」を3次にセットし、1次から児童に目的意識をもたせています。

3次で作品の魅力を発信するために、2次では読みの疑問や青い煙の意味、最初の一文の意図、作品から受けたメッセージ等について**対話**する場を設定し、自分なりに作品の魅力をつかむことを促しています。自分の解釈を説明するための根拠を増やし、考えが深まっていくことを目指す「単元構想」ですね。



## その3 学習課題を考えよう



専門監の単元の1次では、「設定」を読み取った後に初発の感想を書いて、学習計画を立てています。どうしてこのようにしているのですか？

児童は、これまでの他作品の学習でも読みの力を付けています。専門監は、前単元までに、「設定」を読むということは「時や場所、登場人物、人物像」を読むことであり、「こうすると読み取ることができる」という読み取りの方法を児童と共有しています。『ごんぎつね』でも、単元に既習事項の「設定」の読み取り方を活用する場を設けています。

そして、充実した3次のために、初発の感想を基に2次で対話する学習課題を児童と一緒に作り、児童生徒が主役の授業を目指しています。児童が疑問に思うところは、その作品を読み深める勘所(ポイント)につながるきっかけになります。授業者が教材研究によって勘所を押さえておくことで、児童の感想や疑問を学習課題として位置付けやすくなります。



初発の感想例



関連する時間

どうしてごんはいたずらばかりするのかな。

▶▶▶▶ 5~9時間目等

最後にごんの気持ちは兵十に伝わったのかな。

▶▶▶▶ 10~12時間目等

どうして兵十はごんを撃ってしまったのかな。

▶▶▶▶ 10、13時間目等

今年度も専門監や専門監育成研修受講者による「授業力向上研修会」(詳細はTeaRoomから専門監ポータルサイトに)が随時開催されます。「単元構想」を含め、たくさんの示唆をいただけます。授業力アップや学力向上のアイディアを得る機会として、ぜひご参加ください。